

FIT journal

Vol.12/ 2025.May



北陸技術士懇談会

Hokuriku Professional Engineers Conference

目 次

1. はじめに
2. 令和6年度 総会
3. 令和6年度 特別講演会
4. 令和6年度 第1回技術研修会報告
5. 令和6年度 北陸3県内合格者名簿
6. 令和6年度（2024年度）役員名簿
7. 令和7年度（2025年度）行事予定（案）

1. はじめに

今年も桜の開花宣言と同時に、人生のスタート月である4月がやって来ました。弊社にも新入社員が入社し、全社員がそのフレッシュな姿に感動し、改めてやる気を頂いています。

一方で、ニュース報道では、今年4月に入社した新入社員が既に退職代行業者を通じて退職する事例も増えていると聞きます。真偽は不明ですが、これには、就職斡旋業者も絡んでいるということです。つまり、新入社員の場合は、就職斡旋費用はわずかですが、中途採用になると、大きな就職斡旋料が入るという仕組みです。また、今年弊社社員のお子さまが東京の大学に行くということで、都内の不動産業者に連絡していたのですが、日を追う毎にアパート代が高騰しているということを踏まえ、「紹介のみで毎月多くの収入を得ていることに納得できない。」と話していました。

反対に、我々技術士は、能登半島地震の復興をはじめ、公益の確保を最優先に、技術的専門知識と高等の応用能力と豊富な実務経験をフルに活用し、汗をかいて収入を得てきました。また、今回の能登半島地震の復旧工事・監理、調査、設計に関しても、時間がない中、官庁と建設会社、測量会社、ボーリング会社、建設コンサルタント会社等が一体となって、全力投球で行っています。

上記以外にも、公益を確保するための技術士として活躍できる場は多く、簡単ではありませんが、これらの技術士として、汗をかきながら社会貢献を図っていくためにも、多くの技術部門が集う北陸技術士懇談会は大変重要だと思います。

北陸技術士懇談会も、従来金沢で行っていた技術研修会を昨年は福井で、今年は富山で開催するなど交流を活発させることを計画しています。

この懇談会が、能登半島の復興は勿論、北陸全体の発展につながる技術力の研鑽、情報交流の場となるよう事務局と力を合わせて活動して行きますので、会員の皆さま方の積極的なご参加をお願い申し上げます。

北陸技術士懇談会 副会長 大江 正道

2. 令和6年度 総会

令和6年度北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を令和6年6月8日（土）金沢勤労者プラザ 101 研修室にて、対面形式で開催した。

開会の挨拶で今度会長から、多数の参加者に対するお礼に加え、懇談会として会員の技術力向上と相互交流の両輪で取り組むとともに、効率的なCPD ポイント積立に寄与したいとの説明があった。



【今度会長の開会挨拶】

36名の参加があり、会長が議長となり議事を進行し、下記の議案はいずれも原案通り承認された。

1. 議 事

- 第1号議案 令和5年度 活動報告と決算（案）
- 第2号議案 令和6年度 活動計画と予算（案）
- 第3号議案 公募型部会の新設（案）
- 第4号議案 役員改選（案）

2. 報告事項

3. その他

報告事項では、女性部会および若手部会の活動報告や、当会ホームページのリニューアルおよび会員名簿のダウンロードサイト新設についての報告があった。

3. 令和6年度 特別講演会

総会終了後、同会場において、特別講演会を開催した。57名が参加し、参加者から講師に対し多くの質問があるなど、活発な意見交換がなされた。

■講演内容

講演1：「雑談による交流から生み出すイノベーション」

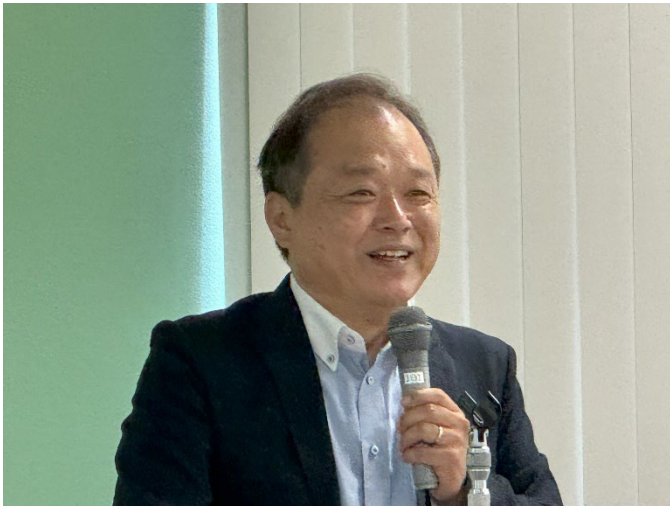
国立大学法人金沢大学学長補佐（地域共創担当）

先端科学・社会共創推進機構

篠田 隆行氏

人口減少・少子高齢化時代において、地域発展のためには行政・地域社会・民間企業の相互協力が不可欠である。講師は、地域発展のためのモデルとなる取り組みとして「雑談による交流」を紹介。実際に効果が確認された「白峰モデル」等での例を通じ、多くのエピソード

ソードや教育機関としての大学の役割を熱心に解説され、大変興味深い講演であった。



【篠田隆行氏のご講演】

（１）取組みの背景

北陸地方の経済発展の可能性を見極めたい想いで、金沢大学で研究を行うこととした。

本年の１月１日、令和６年能登半島地震が発生し、大きな被害が生じた。震災からの復興に関しては、まずは行政側が復興プランを策定しそれを実行していくこととなるが、そのためには民間の力が欠かせない。

金沢大学では、地域に貢献できる人材を育むとともに、地域発展のためのモデルとなる取組みを展開し、「先端科学・社会共創推進機構」は、民間と行政側との橋渡しを行う役割を担っている。

（２）学生を取り巻く状況

大学全入時代に突入し、今後は大学の自然淘汰が進んでいくと思われる。また、大都市圏への進学も全国的な傾向である。そのような中、石川県は全国の地方都市の中で県外への学生流出が少ないのが特徴であり、魅力ある高等教育機関作りを通し、この傾向を守り続けることが大切である。

（３）金沢大学での取組み

大量生産・大量消費時代からの変遷に合わせ、人文社会系と理工系との関わり方も変化していくものと認識している。また、学生に対しては、私の時代とは異なる接し方が必要である。

そのような状況の下では、両分野間での議論やコミュニケーションが重要であり、その手段としての「雑談」に注目している。これらにより、地域でイノベーションを起こす働き方ができる人材を育成し、石川県での労働人口確保に貢献したいと考えている。

（４）「白峰モデル」等の取組み

金沢大学の課外活動プロジェクト「雑談のチカラ」を通じて実施した白峰での取組み（白峰モデル）では、高齢住民との雑談によりニーズを聞き出し、行政と企業を巻き込み社会的課題（買い物難民）の解決に繋がった。また、金沢市内の商店街が主催するイベントでは、その情報をSNSで発信することで多くの来客が訪れた。これらの成果は学生たちが自ら立ち上げたサークル活動によるものであり、「社会との接点を設けたい」「様々なことを経験したい」とのモチベーションがベースとなっている。

講演２：「産学官金連携によるオープンイノベーションの推進」

（公財）ふくい産業支援センター常務理事
兼 オープンイノベーション推進部 部長
後藤 基浩氏

技術職として福井県庁に入庁し、３Ｄプリンタの開発を通じて技術力を発揮されるとともに、その経験を活かして「ふくいオープンイノベーション推進機構」の設立に深く関与し、「技術行政」という形で県内企業のイノベーションを推進した経験を紹介。行政経験のある技術者として、中小企業が単独では解決できない課題を産学官に「金」（金融機関）を加えて解決していくプロセスを多くの事例を通して解説され、大変興味深い講演であった。



【後藤基浩氏のご講演】

（１）福井県の工業

福井県は製造業が盛んな県であり、福井県民一人当たりの製品出荷額は、日本海側でも高いレベルとなっている。その中でも「繊維産業」と「眼鏡産業」は全国シェアのトップとなっており、いずれの産業も１９００年頃からの歴史を有する。

(2) ふくいオープンイノベーション推進機構設立

企業を取り巻く競争環境が厳しさを増す中、自社のリソースのみで新たな顧客の価値を生み出すイノベーションを起こすことに限界が生じている。

このような状況のもと、自社以外のリソースを活用（オープンイノベーション）し、市場機会を創出することを目的に、本機構が平成 27 年 6 月に設立された。設立に際しては、好調なドイツ経済を支える「フラウンホーファー研究機構」を参考にした。

その際、大学等の力を最大限に活用し、大企業のサポートを得るとともに、研究資金を集めるためのネットワーク構築・拡大が課題であった。「金」の役割としては、「金融機関のネットワークを活用した開発ニーズの発掘」および「早期の投融資判断の見極め」が挙げられる。

(3) 支援分野および開発事例

5 分野（宇宙、炭素繊維、ヘルスケア、AI・IoT・ロボット、脱炭素関連技術）を重点支援している。

具体的な開発事例として、宇宙分野では、「福井県民衛星プロジェクト」による県民衛星「すいせん」打ち上げや、ヘルスケア分野では、県内企業が有する繊維産業技術を活用し、大企業と大学で共同開発した心疾患向け血管修復パッチの実用化がある。

■新・既技術士交流会（合格祝賀会）

特別講演会終了後、ANAクラウンプラザホテル金沢にて、新・既技術士交流会（合格祝賀会）を開催し、82 名が参加した。来賓として北陸本部 平野吉彦本部長、与党技術士議員連盟事務局長 新妻秀規参議院議員にも参加いただき、新規合格者を交えて、会員同士の活発な交流が図られた。



【新・既技術士交流会（合格祝賀会）の様子】

（文責：富山 松村 和雄）

4. 令和6年度 第1回技術研修会（現地見学会）報告

令和6年10月26日（土）、福井県内において、「ふくい技術士交流会」との共催により、第1回技術研修会（現地見学会）を開催し、富山・石川・福井の会員33名が参加した。

■現地見学会

見学会1：永平寺門前再構築プロジェクト

曹洞宗大本山の永平寺において、永平寺・永平寺町・福井県の3者が協力し、森ビル㈱による総合的なデザイン監修のもと平成27年度～令和元年度に行われた永平寺門前の環境整備の概要が福井県の橋本盛夫会員により紹介された。

〔3者の役割分担〕

永平寺：外国人観光客向けの宿泊施設

（柏樹園：ハクジュカン）の整備

永平寺町：参道における石畳の整備

福井県：永平寺川の改修



【従前の永平寺川】



【改修後の永平寺川】

永平寺川の改修においては、森ビル㈱によるデザイン画を元に、景観アドバイザーの福井県立大学 進士学長（当時）により、石積の天端を直線的に作らずわざと凹凸をつけるなどの修景が行われている。また、年月の経過とともに石積などの人工物に苔や草木が生い茂り、自然に溶け込んで良好な景観を形成していく「エイジング」という考え方が紹介された。



【橋本 盛夫 会員による説明】

河道に無作為に配置した捨石に流下してきた自然石が引っ掛かり、意図しない落差工が随所に生み出されたことなども紹介され、完成から数年が経過した現地には草木が茂り、周辺施設と調和した趣深い河川景観が形成されていた。



【柏樹關と永平寺川、石畳参道が調和した景観】

見学会2：一乗谷川の改修（一乗谷朝倉氏遺跡）

次に、戦国大名「朝倉義景」の居城であった一乗谷朝倉氏遺跡を貫流する「一乗谷川」の整備事業（平成27年度「土木学会デザイン賞」最優秀賞）の現地見学が行われた。

一乗谷朝倉氏遺跡は、国の「特別史跡」・「特別名勝」・「重要文化財」に三重指定された重要な遺跡であるため、発掘を担当する調査員とも密接に連携しながら一乗谷川の整備を進める必要があったことが福井県の脇本幹雄会員から説明された。



【朝倉氏第五代当主（義景）の館跡】

朝倉館跡付近に出土した戦国時代の石垣をそのまま現代の護岸の一部として活用したこと、また、朝倉館跡の堀の水質維持のため、一乗谷川からの導水路を石積護岸に併設して整備したこと、さらに、魚の遡上も可能な多段式の石材による落差工の整備など、遺跡景観との調和や生態系にも配慮した様々な工夫やアイデアが随所で紹介された。



【脇本 幹雄 会員による説明】



【出土した石垣を護岸の一部として活用】



【石積沿いに朝倉館跡（堀）への導水路を整備】

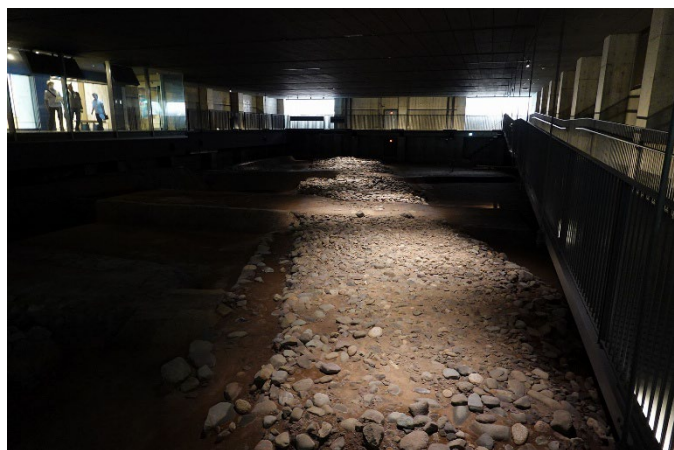


【導水路が繋がる朝倉館跡の堀には鯉が泳ぐ】

見学会 3：一乗谷朝倉氏遺跡博物館

最後に、実物大で再現した朝倉館が展示されている「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」を見学し、将棋の「酔象」の駒など、遺跡内で出土した数々の貴重な文化財について、ガイドから説明を受けた。

なお、「酔象」の駒は敵陣で成ると「太子」となり、王将を取られても負けにならない「朝倉象棋」固有の駒である。奇遇にも1週間前に「竜王戦」が福井県で開催されており、その際に同館を訪れた藤井聡太七冠もこの「酔象」の駒を見学したとのこと。



【石積遺構（戦国時代の川湊）】

また、博物館の工事に伴い偶然発見された「石敷遺構」（戦国時代の川湊とされる）が館内の出土した位置にそのままの姿で大規模に展示されており、当時の人々の営みに思いをはせる時間となった。



【記念撮影（一乗谷朝倉氏遺跡博物館前にて）】

■交流会

現地見学会終了後は福井駅近くの会場「ウェルアオッサ」において交流会が催され、会員同士の活発な交流と親睦が図られた。

（文責：福井 飛石 勝）

5. 令和6年度北陸3県内合格者名簿

●令和6年度北陸3県内合格者名簿（官報及び当会で確認できた方のみ掲載：R7.3.14現在）

1) 第二次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：54名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
石川	中橋 洋一	電気電子部門	西日本電信電話(株)	石川	米田 裕吉	建設部門	JR西日本コンサルタンツ(株)
石川	長谷川 元	電気電子部門	北陸電力(株)	福井	川端 祐輝	建設部門	(株)帝国コンサルタント
石川	島田 雅隆	機械部門	中村留精密工業(株)	福井	品川 円宏	建設部門	福井県庁 吉野瀬川ダム建設事務所
富山	大島 翔	建設部門	北電技術コンサルタント(株)	福井	福田 祐己	建設部門	(株)帝国コンサルタント
富山	山岸 俊之	建設部門	北陸電力(株)	福井	牧野 ゆりの	建設部門	(株)サンワコン
石川	小澤 一生	建設部門	(株)日本海コンサルタント	福井	吉田 哲也	建設部門	(株)サンワコン
石川	鏡味 沙良	建設部門	(株)日本海コンサルタント	福井	小山 拓央	農業部門	福井県土地改良事業団体連合会
石川	高橋 雅憲	建設部門	石川県庁	石川	平形 琢磨	経営工学	大阪有機化学工業(株)
石川	寺尾 仁志	建設部門	石川県庁	富山	林 斐	総監－農業	富山県庁
石川	早川 雅代	建設部門	アルスコンサルタンツ(株)	石川	大岡 明弘	総監－建設	石川県庁
石川	東 靖博	建設部門	(株)北都鉄工	石川	正田 祈	総監－建設	金沢市役所
石川	備後 友貴	建設部門	(株)日本海コンサルタント	石川	宮下 昌之	総監－建設	(株)日本海コンサルタント
石川	松田 有生	建設部門	石川県庁	福井	中野 裕也	総監－建設	富士測量設計(株)
石川	米島 陽太	建設部門	(株)国土開発センター				

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただけると幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
長清 一樹	機械部門	五十嵐 拓実	建設部門	蓮川 剛士	森林部門
村井 孝行	機械部門	齊田 洋之	建設部門	川上 愛絵	森林部門
菅原 拓	電気電子部門	清水 孝二	建設部門	尾崎 翼	情報工学部門
目黒 陽子	化学部門	山田 隆之	建設部門	竹野 茂樹	応用理学部門
吉江 真太郎	金属部門	石井 勝宏	建設部門	井上 賢治	応用理学部門
村椿 豊	建設部門	小林 信敬	建設部門	弟子丸 剛英	原子力・放射線部門
大懸 重樹	建設部門	岡島 魁人	上下水道部門	間嶋 伸明	総監－電気電子
山本 卓	建設部門	宗田 敏男	上下水道部門	高柳 伸之	総監－建設
島田 正輝	建設部門	小竹原 大介	農業部門	廣瀬 一聖	総監－応用理学
小坂 謙介	建設部門	瀬川 徳子	農業部門	葛木 建大	総監－応用理学

2) 第一次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：156名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
富山	河島 礼奈	建設	北電技術コンサルタント(株)	福井	尾崎 文亮	建設	福井県庁 嶺南振興局 小浜土木事務所
富山	寺本 将悟	建設	北電技術コンサルタント(株)	福井	川下 将克	建設	福井県庁 河川課
富山	福井 涼太郎	建設	北陸電力(株)	福井	高橋 銀治	建設	(株)サンワコン
富山	山崎 雄太	建設	北電技術コンサルタント(株)	福井	前川 雄飛	建設	(株)サンワコン
石川	稲葉 るか	建設	鯉コンサルタンツ(株) 鯉店	福井	前田 佳延	建設	
石川	橋本 佳奈	農業	(株)日本海コンサルタント	福井	吉田 勉	建設	日光産業
石川	橋本 光	経営工学	合同会社KANAZAWA DESIGN AND MOTORS	福井	花山 美希栄	上下水道	福井市役所
福井	桶谷 順一	電気電子	(株)アムコ・テクノロジー・ジャパン	福井	東海枝 一樹	環境	(株)サンワコン
福井	浅井 奏音	建設	(株)サンワコン				

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただけると幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
廣上 岳雄	機械	魚津 敬人	建設	西野 琴音	建設
坂本 恭介	機械	東出 佑太	建設	浦田 敦也	建設
堀川 廉	機械	結城 陽平	建設	林 智央	建設
関口 啓介	機械	森 彩乃	建設	大黒 貴史	建設
速水 里佳	機械	堀内 空汰	建設	田中 大貴	建設
穴田 侑也	機械	平口 昌樹	建設	石山 幸児	建設
高山 和也	機械	岩切 大慧	建設	山口 恭平	建設
大岩 克耀	機械	葉山 みのり	建設	上岡 莉子	建設
新出 宏樹	機械	武田 和海	建設	高下 慧大	建設
蜂谷 祥吾	機械	市田 花歩	建設	中谷 鴻太	建設
高島 靖隆	電気電子	赤澤 えみ	建設	堂越 寿啓	建設
駒澤 政博	電気電子	神林 星那	建設	岡田 夏芽	建設
稲垣 清亮	電気電子	高山 文乃	建設	柿崎 雄介	建設
片山 和彦	電気電子	水上 尚	建設	大出 直斗	建設
中橋 慎也	電気電子	俵谷 旺太	建設	上屋 雄大	建設
石丸 哲也	電気電子	馬淵 慎也	建設	池上 歩花	建設
有側 光希	電気電子	村上 大征	建設	香山 赳祐	建設
飯田 洋輝	化学	齊藤 弘明	建設	大平 貢	建設
西 達也	繊維	扇田 杏	建設	宮本 弥彦	上下水道
児島 貴之	繊維	土田 浩太	建設	清水 優樹	上下水道
紆本 孝市	建設	押鐘 宏貴	建設	新保 友彩	上下水道
太田 正人	建設	千葉 敬太	建設	中島 雅史	上下水道
大橋 孝志	建設	遠藤 心 and 子	建設	免田 好広	上下水道
吉田 圭佑	建設	前川 拓真	建設	二木 桂	上下水道
原澤 憲	建設	竹川 そよか	建設	笹嶋 由佳	衛生工学
前川 実紀	建設	和田 彩夏	建設	馬田 雄史	農業
杉浦 昂樹	建設	松本 征也	建設	東 真一	農業
水野 浩明	建設	田原 郁子	建設	小嶋 克享	農業
高見 友陽	建設	小田原 遼介	建設	鳩澤 克彦	森林
藤川 晃太	建設	塚島 新司	建設	判 琴羽	森林
澁谷 壮志	建設	河元 愛来	建設	竹村 克彦	森林
森田 開成	建設	田代 陸人	建設	大間 憲之	水産
北川 雅章	建設	白濱 駿伍	建設	大場 智央	水産
橋本 早苗	建設	橋本 佳祐	建設	高嶺 秀臣	水産
宮田 英寿	建設	小林 樹	建設	増山 和則	経営工学
千田 倫也	建設	坂本 圭	建設	北川 智治	経営工学
昇 博美	建設	中村 和歌子	建設	高橋 吉英	情報工学
中出 みゆ	建設	太田 雅次	建設	太田 拓伸	情報工学
小鍛冶 政敏	建設	谷本 大空	建設	菊地 陽向子	応用理学
平岡 知起	建設	清水 京侍	建設	山田 泰洋	応用理学
初見 知香	建設	板坂 遼	建設	大平 淑恵	環境
林 聖也	建設	村田 葉生	建設	池本 拓真	環境
松井 孝枝	建設	NURR IZZATI BNTI MOHAMMAD ZAMBREE	建設	野本 佳	環境
鈴木 琉斗	建設			山本 力也	原子力・放射線
飯塚 悠貴	建設	虎谷 咲季	建設	宮森 巧	原子力・放射線
播磨 雄大	建設	松本 魁光	建設	常少 亮太	原子力・放射線
村口 貴紀	建設	小澤 歩実	建設		

6. 令和6年度（2024年度）役員名簿

役職	氏名	県名	部門			所属先	所属先役職
会 長	今度 充之	石川	建設	総監		東京コンサルタンツ(株) 金沢支店	理事北陸支社長
副会長	大江 正道	富山	建設	総監		北電技術コンサルタント(株)	上席執行役員土木本部長
副会長	西出 俊亮	福井	建設	総監		(公財) 福井県建設技術公社	理事長
理事(総務委員長)	池田 保裕	福井	建設	総監		(株)ワカサコンサル 福井支店	支店長
理事(総務委員)	玉村 清文	石川	応用理学	建設	総監	アルスコンサルタンツ(株)	部長
理事(総務委員)	初田 浩也	富山	建設			新和設計(株)	代表取締役
理事(総務委員)	山崎 裕生	福井	農業	建設		丸一調査設計(株)	代表取締役
理事(事業委員長) [事務局長]	埴 正浩	石川	建設	総監		(株)日本海コンサルタント	専務取締役
理事(事業委員)	市埜 吉孝	福井	農業			福井県丹南農林総合事務所	課長
理事(事業委員)	金子 義幸	石川	機械			高松機械工業(株)	次長
理事(事業委員)	酒井 信次	富山	建設			大日本ダイヤコンサルタント(株)北陸支社	主幹
理事(事業委員)	飛石 勝	福井	建設			福井県庁	グループリーダー
理事(事業委員)	野口 将志	石川	建設			(株)ホクコク地水	
理事(事業委員)	細野 恭成	富山	建設			(株)アイベック	
理事(事業委員)	松村 和雄	富山	建設	総監		北陸電力(株)	課長
理事(業務委員長)	竹内 勝信	富山	建設	総監		国土監理(株)	技師長
理事(業務委員)	石田 哲義	富山	機械			いしだ技術士事務所	所長
理事(業務委員)	鈴見 裕司	石川	建設			石川県庁	参与
理事(業務委員)	辻 隆治	福井	建設	総監		(株)サンワコン	
理事(姓・姓類)	平澤 由佳	石川	農業	総監		(株)国土開発センター	設計3部部長
理事(姓・姓類)	梅田 祐一	福井	応用理学	建設	総監	(株)デルタコンサルタント	
理事(姓・姓類)	佐々井 忍	富山	建設			共和クレーン(有)	代表取締役
理事(姓・姓類)	埴田 照代	福井	建設	環境	農業	(株)北陸環境科学研究所	課長代理
理事(姓・姓類)	辰橋 浩二	石川	建設	環境		(株)国土開発センター	環境1部部長
監 事	明石 秀司	富山	建設	総監	環境	日本海環境サービス(株)	取締役
監 事	爲沢 剛	福井	農業			(株)帝国コンサルタント	
監 事	中野 哲朗	石川	上下水道	建設	総監	中部地質(株)	副社長
相談役	有澤 良一	富山	建設			(株)アリサワ技術	代表取締役社長
相談役	橋本 栄治	福井	建設			(一社) 福井県建設業協会	
相談役	屋敷 弘	石川	建設	農業	総監	屋敷技術士事務所	所長

7. 令和7年度（2025年度）行事予定（案）

開催予定月日	事業内容
2025年5月31日	北陸技術士試験研究会の協賛 総合技術監理部門受験講習会 ※中止もあり
2025年6月14日	令和7年度総会・特別講演会（金沢勤労者プラザ）
2025年7月3, 4日	技術士会北陸本部 年次大会（新潟県担当）
2025年7月20, 21日	技術士第二次試験（石川会場）20日：総監部門、21日：総監以外部門
2025年10月18日	第1回役員会・第1回技術研修会（見学会）（富山開催）
2025年10月25～28日	技術士全国大会（熊本・九州沖縄）
2025年11月23日	技術士第一次試験（石川会場）
2026年4月25日	第一次試験合格者（JABEE含む）ガイダンス（金沢勤労者プラザ）
2026年4月25日	第2回役員会・第2回技術研修会（講演会）（金沢勤労者プラザ）
2026年4月25日	令和7年度新・既技術士交流会（ANAクラウンプラザホテル）

★★ 編集後記 ★★ これまでの「懇談会 会報」は名称を「FIT journal」と改めました！

昨年は、1月に能登半島地震、9月に奥能登豪雨と大きな災害に見舞われました。能登半島の被災地の状況を見ますと、公費解体は進んでいますが、これまでの過疎化に拍車をかけており、かつての賑わいが戻るか心配になります。今後は、インフラの復旧に加え、生業も含めた創造的復興が求められます。

一方、昨年3月の北陸新幹線敦賀開業により、北陸の主要都市ではインバウンドの観光客が多くみられるようになりました。こうした開業効果を北陸三県の隅々まで波及させることが求められています。

FITは、会員相互の親睦や交流を通して技術研鑽し、地域社会の発展に寄与することを目的としています。今後も会員相互の連携により、安全・安心で魅力的な北陸づくりのためにご尽力いただければ幸いです。

【事務局】(株)日本海コンサルタント内 〒921-8042 金沢市泉本町2丁目126番地 TEL076-243-8258
北陸技術士懇談会 HP: <https://www.hokugikon.jp/> ※新しくなりました!!!